

令和 2（2020）年度 資源評価調査報告書

種名	アカガレイ	対象水域	太平洋北部（青森～茨城）
担当機関名	水産研究・教育機構 水産資源研究所 水産資源研究センター、 青森県産業技術センター水産総合研究所、 岩手県水産技術センター、宮城県水産技術総合センター、福島県水産資源研究所、福島県水産海洋研究センター、茨城県水産試験	協力機関名	

1. 調査の概要

青森県（佐井村以東）、岩手県、宮城県、福島県および茨城県の県内主要港の月別漁業種類別水揚量を集計し、各県の漁獲量の推移（図1）と漁業種別の漁獲量の推移（図2）を求めた。

2. 漁業の概要

漁獲量のスケールと推移のパターンは県によって異なるが、2019年の漁獲量はいずれの県でも低い水準となっていた（図1）。青森県の漁獲量（2007～2019年）は、2007年に33トンであったが、その後減少傾向で、2019年は2トンであった。岩手県の漁獲量（1994～2019年）は増減を繰り返しながらも大域的には減少傾向で、1998年に漁獲量が51トンと最大であったが、2019年は8トンであった。宮城県の漁獲量（2000～2019年）は2011年に大きく減少しており、2011年以降の漁獲量は2010年以前よりも低く、2019年は33トンであった。福島県の漁獲量（2000～2019年）は2011年に大きく減少しており、2011年以降の漁獲量は2010年以前よりも低く、2019年は8トンであった。茨城県の漁獲量（1990～2019年）は増減を繰り返しながらも2000年以降は減少傾向で、2019年は0.5トンであった。

本種は主に底曳網や刺し網で漁獲されるが、主体となる漁法は県によって異なっていた。青森県と茨城県では、沖合底びき網漁業と小型底びき網漁業による漁獲量が大部分を占めていた（図2）。岩手県では沖合底びき網漁業と底刺し網漁による漁獲量が大部分を占めていた。宮城県と福島県は沖合底びき網漁業による漁獲量が大部分を占めていた（図2）。

3. 生物学的特性

- (1) 分布・回遊：水深 40～900m の砂泥底に分布。
- (2) 年齢・成長：東北太平洋は他の海域に比べて成長が早く、雌は 1 歳で体長約 11 cm, 2 歳で 15 cm, 3 歳で 18 cm, 4 歳で 21 cm, 5 歳で 24 cm, 11 歳で 32 cm ほど、雄は 1 歳で体長約 9 cm, 2 歳で 15 cm, 3 歳で 17 cm, 4 歳で 19 cm, 5 歳で 20 cm ほどにな

る(北川ほか 2004)。また本種は加齢にともなって成長があまり鈍化しないことが報告されている(岩川ほか 2013)。寿命は雌で 15 歳程度と推定されており、雄の方が短いとされる(山田ほか 2006)。

- (3) 成熟・産卵：50%成熟年齢は雄で 4 歳、雌で 5～6 歳(山田ほか 2008)。産卵は 100 m 以浅の各地の沿岸域で行われることが知られている(山田ほか 2008)。
- (4) 被捕食関係：クモヒトデ類，二枚貝類，エビ類，オキアミ類，小型魚類，イカ類など様々な餌生物を利用する。

4. 資源状態

宮城県と福島県の2019年の漁獲量は2018年に比べて増加しているが、青森県、岩手県および茨城県の2019年の漁獲量は2018年に比べて減少している(図1)。また、いずれの県においても、漁獲量は2016年頃から減少傾向にあり(図1)、系群全体の漁獲量は2015年以降減少傾向にあった(図2)。これらを総合すると、資源水準は低位、動向は減少であると判断された。

5. 資源回復などに関するコメント

2011年以降漁獲量が大きく減少していることから、引き続き漁獲量の推移に注意を払う必要がある。

引用文献

- 岩川浩大・高橋豊美・高津哲也・稲垣祐太・中谷敏邦・前田辰昭(2013) 北海道噴火湾におけるアカガレイ *Hippoglossoides dubius* の成長様式. 日水誌, **79**, 10-19.
- 北川大二・片山知史・藤原邦浩(2004) 東北海域におけるアカガレイの分布と成長. 水産海洋研究, **63**, 151-157.
- 山田 学・上田祐司・服部 努・山廻邊昭文・吉田哲也(2006) 常磐海域で漁獲されたアカガレイの生態と資源診断. 福島水試研報, **13**, 19-36.
- 山田 学・山廻邊昭文・佐藤美智男・吉田哲也・河合 孝(2008) 福島県沖合海域におけるアカガレイ雌の成熟と産卵期. 日水誌, **74**, 849-855.

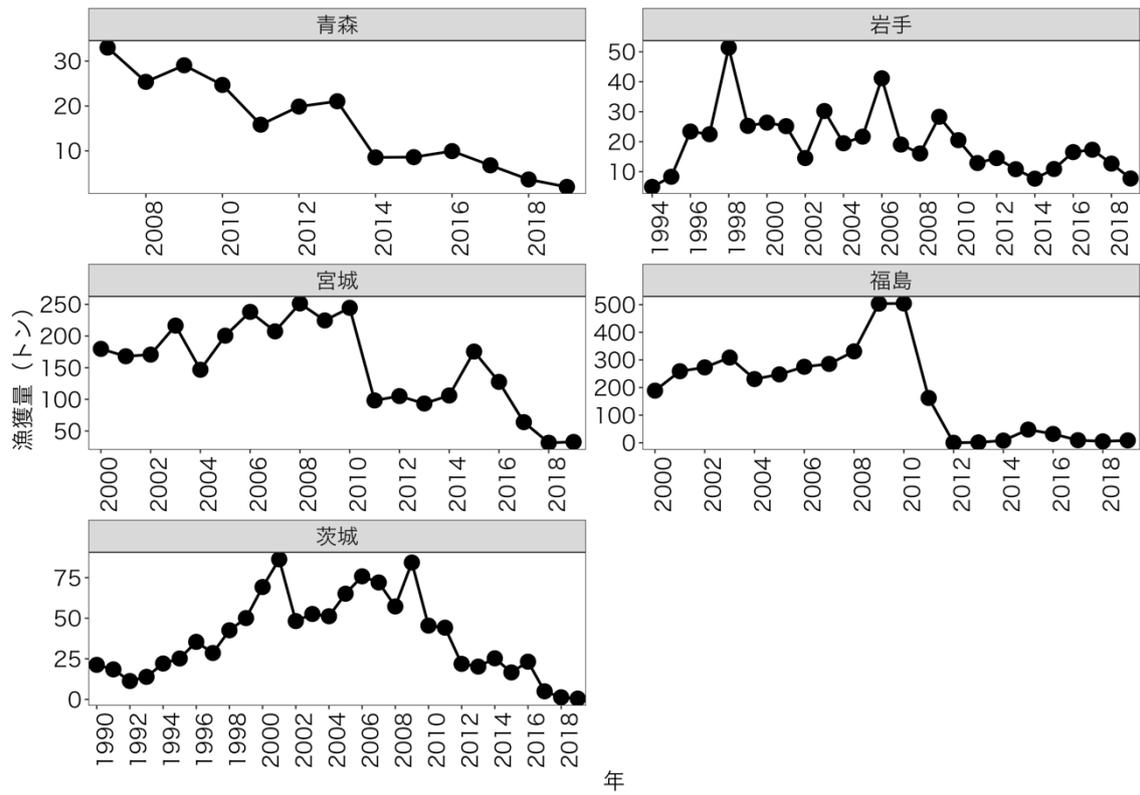


図1. 各県の漁獲量の推移

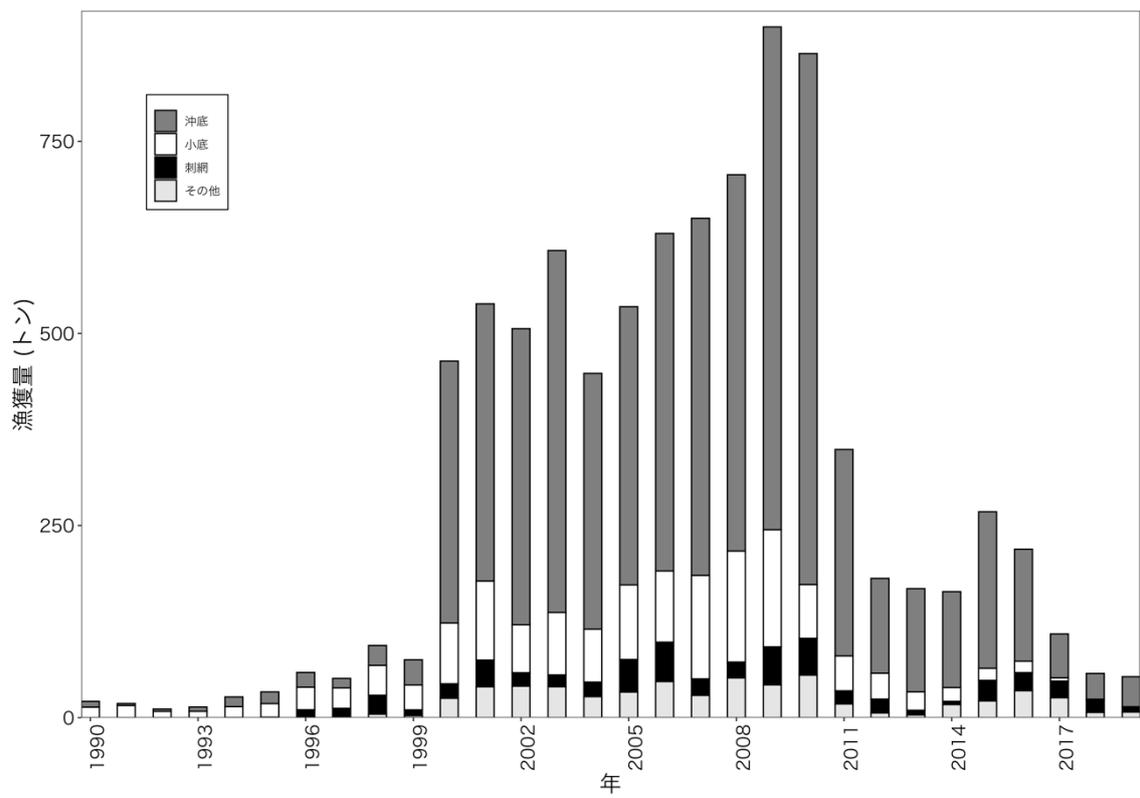


図2. 漁業種別の漁獲量の推移